

レッスン 5

A. お祈りの暗唱と暗記

ここからの4つのレッスンは、あなたが暗記している別のお祈りでクラスをはじめます。このためにセクション6に出ているお祈りを使いましょう。あなたと、数人の子どもが始めのお祈りを唱えてから、下のお祈りを紹介し、暗記を始めてもらいましょう。このクラスが終わる前に少なくともこのお祈りの一部分を覚え、レッスン8までに完全に覚えて暗唱できることを目指しましょう。

神様、私をお導きください。お守りください。
私の心の灯を明るくして、私を輝く星となし給え。
あなたは偉大なる御方におわし、力に満ち給う御方にまします。¹⁰³

B. 歌

このレッスンで、以下の歌を教えるとともに、すでに習った歌と一緒に歌うといいでしょう。

「寛大な噴水」

『ブック3 子どもクラスの歌』CD、11番

噴水であれ 泉であれ たえず湧き出させよ

あなたがそうすれば 幸せがやってくる

毎日探しなさい

何かあげるもの あるでしょう

幸せをゴールにせよ 心と魂 与え

あなたがそうすれば 神と ともにある

噴水であれ 泉であれ たえず湧き出させよ

あなたがそうすれば 幸せがやってくる

毎日探しなさい

何かあげるもの あるでしょう

幸せをゴールにせよ 心と魂 与え

あなたがそうすれば 神と共にある

C. 引用句の暗記

このレッスンのテーマと、子どもたちが暗記する引用句を説明するとき、下の文は助けになるでしょう。

神は創造されたものに対して、とても寛大です。草木には雨を降らせてくださり、人や動物には食べ物を用意してくださいます。神は私たち皆の面倒をみてくださいます。神は私たちにたくさんの贈り物をくださいました。山や、川、星、また私たちの周りにあるすべての美しいものを見るために目をくださり、美しい歌の調べや鳥のさえずり、お父さんやお母さんの教えや、神様の言葉を聞くために耳をくださいました。神は私たちに宇宙の神秘を知ることができるように知性もくださいました。そして何より、神を知り、神を愛することができるように精神的な力をくださいました。神様が私達に寛大なように、私たちも他の人に寛大でなければなりません。私たちが持っているもの、たとえば食べ物、持ち物、時間、知識などを、それを必要としている人達にあげるべきです。私たちの愛や喜び、それに家や学校で習った良いことも分かち合うべきです。寛大であるよう努力するのを助けるために、バハオラからの次の引用文を暗記しましょう。これは神様の寛大であるということを私たちに思い出させます。

^{せよ}**施与と寛大とはわが属性である。**

わが美德をもって自己を飾る者は幸いである。 104

<寛大>

1. ラム君とラージシュ君は、ちょっとだけ貯金がありました。二人はそのお金で弟と妹に本を何冊か買ってあげることにしました。ラム君とラージシュ君は寛大です。
2. マーフィー夫人は午前中かかって作ったケーキを町に売りに行く前に、大きなケーキ2個を隣の人たちに分けてあげました。マーフィー夫人は寛大です。

<わが>

* 前も説明したように、神様はご自分のこととお話される時、「わたし」とか「ぼく」の代わりに「われ」と言われます。ですから、ここでは、「わが属性」というのは、神様の属性という意味です。

<属性>

1. 石はとても硬い。硬さは石の属性です。
2. 「チャーリーンちゃん、あなたの属性の一つは、自分から進んで一所懸命に勉強するところね」と、先生はチャーリーンちゃんに言いました。

<飾る>

1. 今夜、コミュニティーセンターでお祈りの集いが開かれます。子どもたちは集会室に活けるお花を摘みました。集会室はお花で飾られました。
2. リー・フェン君の笑顔は素敵です。彼の顔はいつも笑顔で飾られています。

<幸いなり> = 幸せである、恵まれている (☆: 英語にはない)

D. お話

このレッスンで、以下のお話をきかせます。これは子どもたちが寛大という概念について考える助けになるでしょう。

ある日、アブドル・バハは、お父様バハオラの羊の世話を任されている人から、郊外^{こうがい}で羊飼いたちと共に一日を過ごしませんかと誘われました。当時、アブドル・バハはまだ幼い子どもで、バハオラとそこご家族が愛すべき祖国を追放されるずっと前のことでした。バハオラは、山岳地帯にかなり広い土地を所有されており、たくさんの羊を飼っておられました。お母様の許しを得たアブドル・バハは、羊飼いの人たちと一緒に歌ったり踊ったり、素晴らしいご馳走^{ちそう}を食べたり、素敵な一日を過ごされました。日も暮れて、アブドル・バハが帰ろうとされていると、羊飼いたち全員が集まってきてお別れの挨拶をしました。すると、連れの者が、「土地や羊を持っている人は、お別れの時にお餞別^{せんべつ}を渡すものですよ」と言いました。アブドル・バハはしばらく黙っておられました。彼らにあげるものを何も用意していなかったからです。しかし、連れの者は羊飼いたちが何かもらえるものと期待していると言いつづけました。そこでアブドル・バハは彼らが世話をしている羊のうちの何頭かを贈ることを思いつかれました。アブドル・バハのこのように寛大な心遣いについてお聞きになったバハオラは、とても喜ばれました。そして、アブドル・バハは自分までもあげてしまうことになるから、皆でしっかり彼を世話しないといけない、と冗談まじりにおっしゃいました。もちろん、これこそアブドル・バハが生涯を通じて行われたことです。師は持っていた物全てを人にあげられたのです。私たちを一つに結び、本当の幸せをもたらすために、師は人生の一瞬一瞬を人類に捧げられました。

E. ゲーム「双子」

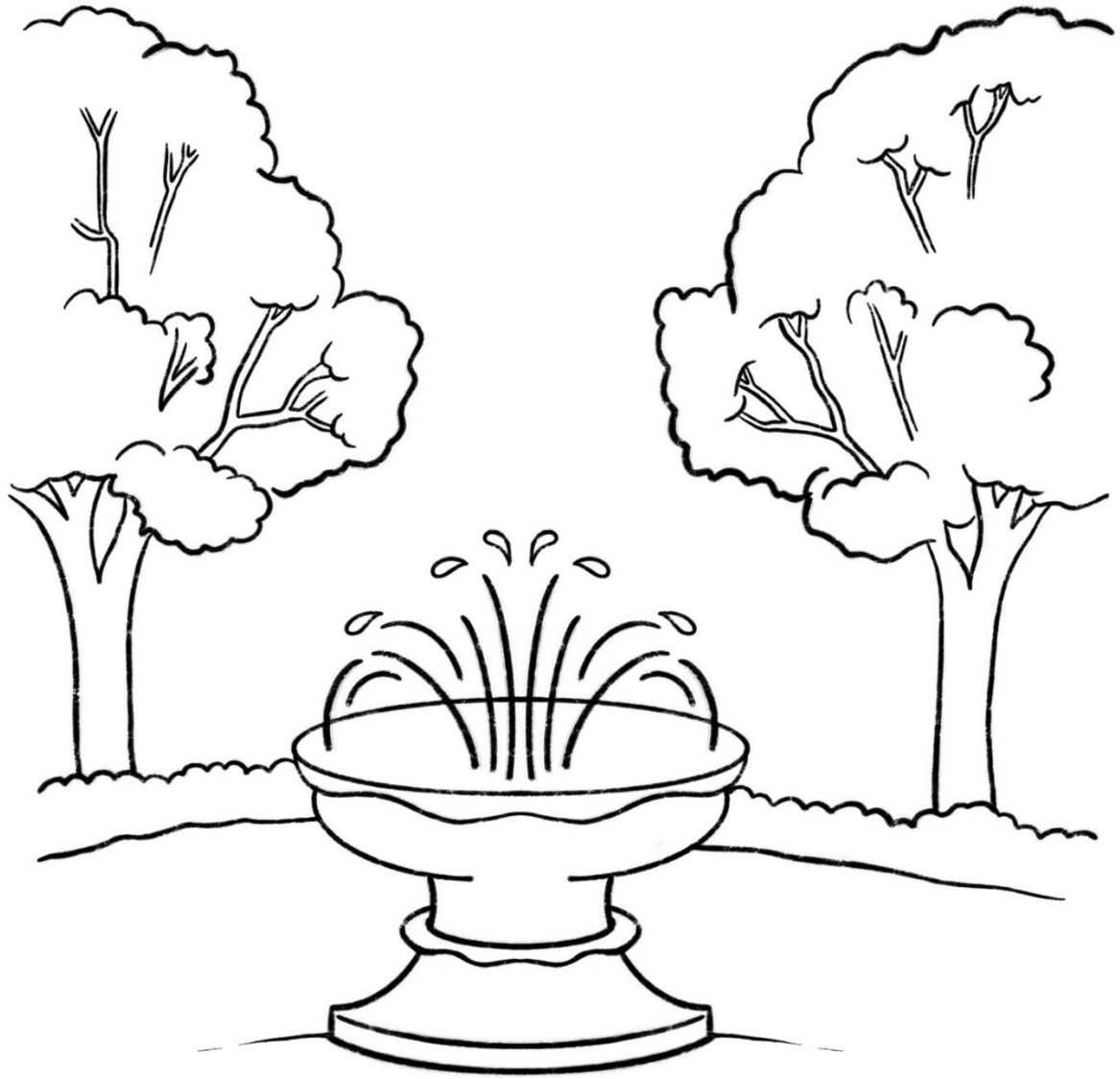
お話の後、いつものようにゲームをします。子どもたちを2人ずつ組にします。できるだけ同じ背丈の子とペアになるようにします。二人が背中合わせに立ってからしゃがみ、それから肘を組んで立ち上がるように挑戦してもらいます。これができたら、3人か4人の組を作って同じことをやってみます。

F. むり絵 5

最後の活動は塗り絵。図5のコピーを一人1枚ずつ配りましょう。

G. 終わりの祈り

いつものように、あなたと数人の子どもたちがお祈りと引用句を唱えて、クラスを終わります。



せよ かんだい ぞくせい
施与と寛大とはわが属性である。
びとく じこ かぎ さいわ
わが美德をもって自己を飾る者は幸いである。